

大人も子どもも共に楽しくまなび合えるまちになるために

行政がやるべきこと(第3回審議会ワークショップまとめ)

☆市のビジョンを持つ

- ・まなび続けられる、対話ができる土壌をつくる
- ・まなびを通じたまちづくりのビジョンを示す
- ・誰一人取り残さない学びを訴える

☆行政組織間の横断連携体制の構築

- ・各分野がつながっていない。
- ・行政の部署間の連携が重要
- ・多様な主体の連携・協働を促す
- ・自治協議会がつなぐ、組織ネットワーク(最初は市が行う必要がある?)

☆社会教育人材の育成と活躍機会の拡充

○社会教育士の育成

- ・仕掛ける人の重要性
- ・人と人をつなぐ人材の育成
- ・話し合いの場を作る支援

○活躍機会づくり

- ・話し合いの場を作る支援
- ・学校内に社会教育人材を配置
- ・Iターンと地域をつなぐ
- ・地域教育を推進する場所や拠点

○社会教育士のネットワーク

- ・社会教育士のつながりを行政がバックアップ
- ・対話の場をたくさん作る
- ・相談、お願いがしやすい関係性

☆広報・情報発信

- ・選択肢を用意する
- ・学習(活動)情報の発信
- ・誰でも簡単に情報にアクセスできるように
- ・学びの取組を知らせる情報発信 プラットフォーム
- ・イベントの周知
- ・社会教育士って何だ。わかりやすく広める

☆地域とのつながり

- ・教育の場だけではなく、地域や自治会にも話す。
- ・人の循環が大切、後継者の育成
- ・顔が見える子どもがいる
- ・当事者意識

☆まなびの場づくりと機能

- ・共有体験の場(機会)を提供する
- ・共通体験から楽しいが生まれる
- ・デジタル技術を学び機会を作る
- ・AIの発展と教育の関係性を学びの中で考える
- ・たのしいおもしろいが大切
- ・課題を楽しく解決する

☆図書館の機能充実

- ・図書館を核にしたまちづくりの推進
- ・図書館をもっと充実させる
- ・図書館司書のサポート機能の向上
- ・人が集まる図書館
- 学校図書館の充実
- ・学校図書館司書の配置

○図書館の機能

- ・電子図書館の充実 最新のコンテンツやおすすめ機能
- ・図書館に相談できるスペースがある
- ・司書さんが人やイベントを紹介してくれる
- ・ちーたん文庫のような場所を増やす